

アリス・ベイリー著
『テレパシーとエーテル体』

読書会 & シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い: ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
光を地上に降らせ給え

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貧しき意志を導かんことを
如来は大目的を知り、これに仕え給う

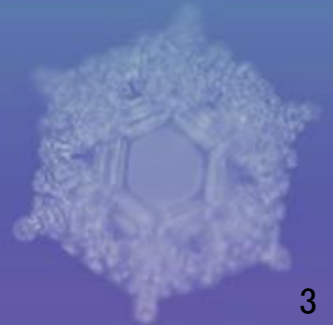
我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲処すみかの扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

読書会



今日のスケジュール

読書会(21時5分位から1時間)

●担当:根本泰行

シェア会(読書会の後)

●担当:あんどうさわこ



アリス・ベイリー (Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**)

神秘主義関係の作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール（不朽の知恵、秘教占星学）」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師（マハトマ）の**ジュワル・クール**（英語版）からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社（後年、**ルシス・トラスト**（英語版）に改名）を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」（Arcane School）という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

『テレパシーとエーテル体』 Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)



ジュワル・クール大師 (Djwal Khul) 翻訳書3~4頁

私は他の人々と同じような肉体をまとしてチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を負う、**あなた方の兄弟**である。

私が書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

テレパシーとエーテル体

Telepathy and
the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー 著
AABライブラリー 翻訳・発行

第二部 エーテル体に関する教え

1	エーテル体の性質……………	162
2	非分離の基礎……………	172
3	惑星と人間のセンター……………	184
4	センターとパーソナリティー……………	192
5	空間の性質……………	203
6	惑星生命——太陽系の一つのセンター……………	209

アリス・ベイリー原著

https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks

Telepathy And The Etheric Vehicle

Sub-sections:

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3](#)

SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

See Chart Evolution of a Solar Logos

Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.

2.非分離の基礎（p172）

- 顕現している私たちの惑星生命において**分離**
はありえないということである。
- **あらゆるもの**—あらゆる形態、すべての形態
内のあらゆる器官、あらゆる自然王国に顕現
している生命のすべての様相—は、存在する
すべてのものの基礎になる**惑星のエーテル**
体（すべてのエーテル体がその不可欠の部分
である）を通して**一つ一つが密接に関係づけ**
られている。

2.非分離の基礎 (p173, p175)

- すべてが絶えず**運動**し、常に**循環**している。すべてが次へと進み、入り、そして通過する。
(略)いかなる**形態**であれ、この揺るぎない**流入**と**流出**によって「形と生命を保持」されていないものはない。
- 学ぶ人々は、**エーテル体**が完全な統合した実体であり、エーテル質料だけで構成されると単純に語る傾向があり、**エーテル体が多**
くのタイプのエネルギーが移動する媒体であることを忘れている。

Yukoさんからのご指摘

1. 非分離についての説明で、**ブラックロジ**に言及しているのは唐突で異質な情報に感じられるとのことでした。
 - しかしブラックロジという、自分とはどんなに大きく意識がかけ離れた存在でも、非分離の例外ではないと示唆してくれることにより、本当にあらゆるものに分離はないのだという理解が一層深まります。
 - ブラックロジは人類の問題ではないですが、差し支えない範囲の情報は所々で書かれています。
2. **「cerebro-spinal and the sympathetic nervous systems」**
 - 上記は、脳脊髄(中枢神経系)と交感神経系と訳して良いと思います。
 - この2つは一般的にはカテゴリーエラーですが、秘教的にはエラーではありません。
 - 脳脊髄はメンタル体やアジュナセンターと関係し、交感神経はアストラル体や太陽叢センターと関係します。
 - 脳が脊柱を介して神経系を統御するようになるまでは、太陽叢が動物的な脳として神経系を統御しているとされています。
 - 一般的にも、腸が第2の脳と呼ばれ、脳に次いで2番目に多い神経細胞があることと関係しているのだと思います。
3. **「真の感応装置」**の候補として、「感覚神経」を挙げられていましたが、医学ではまだ認知されていない神経である「ナディーのシステム」を指しています。

2023年5月20日(土)

『テレパシーとエーテル体』

2 非分離の基礎

177頁、4行目から始めます！

『テレパシーとエーテル体』

p.177:8行目

- 【翻訳】これらは一つの単位を形成しており、**転生しているとき**、それらを分離することはできない。
- 【原文】These form one unit and **in incarnation** are inseparable.
- 【英語辞書】**incarnation**
 - 【名-1】**肉体化**(されていること) / 【名-2】《Incarnation》《キリスト教》顕現◆神はイエス・キリストとなってこの世に現れたとする教義 / 【名-3】[超自然体の]権化、化身、生まれ変わり / 【名-4】[輪廻思想の]**一生**
- 【英語辞書】**reincarnation**
 - 【名】[靈魂の]再生、生まれ変わり
- 【語源】**incarnation**は「受肉」を意味し、語源はin(中)とcaro(肉)に由来します。原義はラテン語の incarnationem(受肉すること)です。
- 【Wikipedia】**転生**(英語では **reincarnation**)とは、肉体が生物学的な死を迎えた後には、非物質的な中核部については違った形態や肉体を得て新しい生活を送るという、哲学的、宗教的な概念。これは新生や生まれ変わりとも呼ばれ、存在を繰り返すというサンサーラ教義の一部をなす。
- 【根本試訳】これらは一つの単位を形成しており、**転生において肉体化しているときには**、それらを分離することはできない。

『テレパシーとエーテル体』

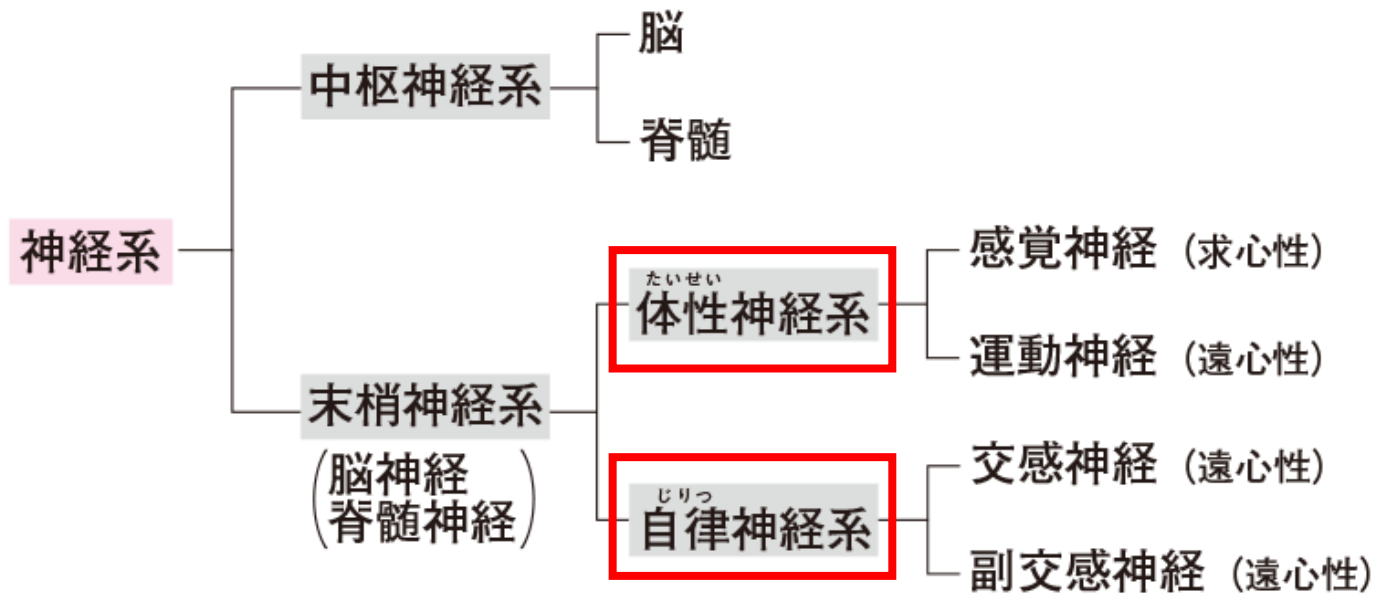
p.177: 後ろから7行目～5行目

- 【翻訳】エーテル体に見られるセンター全体と多くの接触の焦点は、限定された不十分な形で内分泌系を創造し維持する原因になるものであり、あるいは霊的人間の代理になっているが、全く十分なものである。
- **【原文】**The centres in their totality and the many focal points of contact found in the etheric body are responsible for the creation and preservation of the endocrine glandular system in a form either limited and inadequate, or representative of the spiritual man and entirely adequate.
- **【DeepL翻訳】**エーテル体にあるセンターと多くの接触点は、限定的で不十分な形で、あるいは霊的な人間を代表する完全な形で、内分泌腺系の創造と保存に責任を負っています。
- 【根本試訳】エーテル体に見られるセンター全体と多くの接触の焦点は、限定的かつ不十分な形で、もしくは、霊的人間を表す完全に適切な形で、内分泌系を創造し維持する原因となっている。

『テレパシーとエーテル体』

p.177: 後ろから5行目

- 【翻訳】**二つの神経系**
- 【根本コメント】**二つの神経系**について、176頁には**中枢神経系**と**交感神経系**であると書かれている。しかしながら、根本試案としては、この文脈においてもっとも適切な術語は、「**体性神経系**」(**感覚神経+運動神経**)と「**自律神経系**」(**交感神経+副交感神経**)であるように思われる(前回の読書会で解説済み)。



『テレパシーとエーテル体』

p.178:1行目

- 【翻訳】基本的には四つの王国はそれぞれ、プラナ生命をエーテル質料の四つのレベルから引き寄せる。下から数えるとー

- 1 鉱物王国は第一のレベルによって維持されている。
- 2 植物王国は第二のレベルによって維持されている。
- 3 動物王国は第三のレベルによって維持されている。
- 4 人間王国は第四のレベルによって維持されている。

第一エーテル
第二エーテル
第三エーテル
第四エーテル
気体
液体
固体

- 【根本補足】以下のように置き換えられるはずである。

- 1 鉱物王国は第四エーテルのレベルによって維持されている。
- 2 植物王国は第三エーテルのレベルによって維持されている。
- 3 動物王国は第二エーテルのレベルによって維持されている。
- 4 人間王国は第一エーテルのレベルによって維持されている。

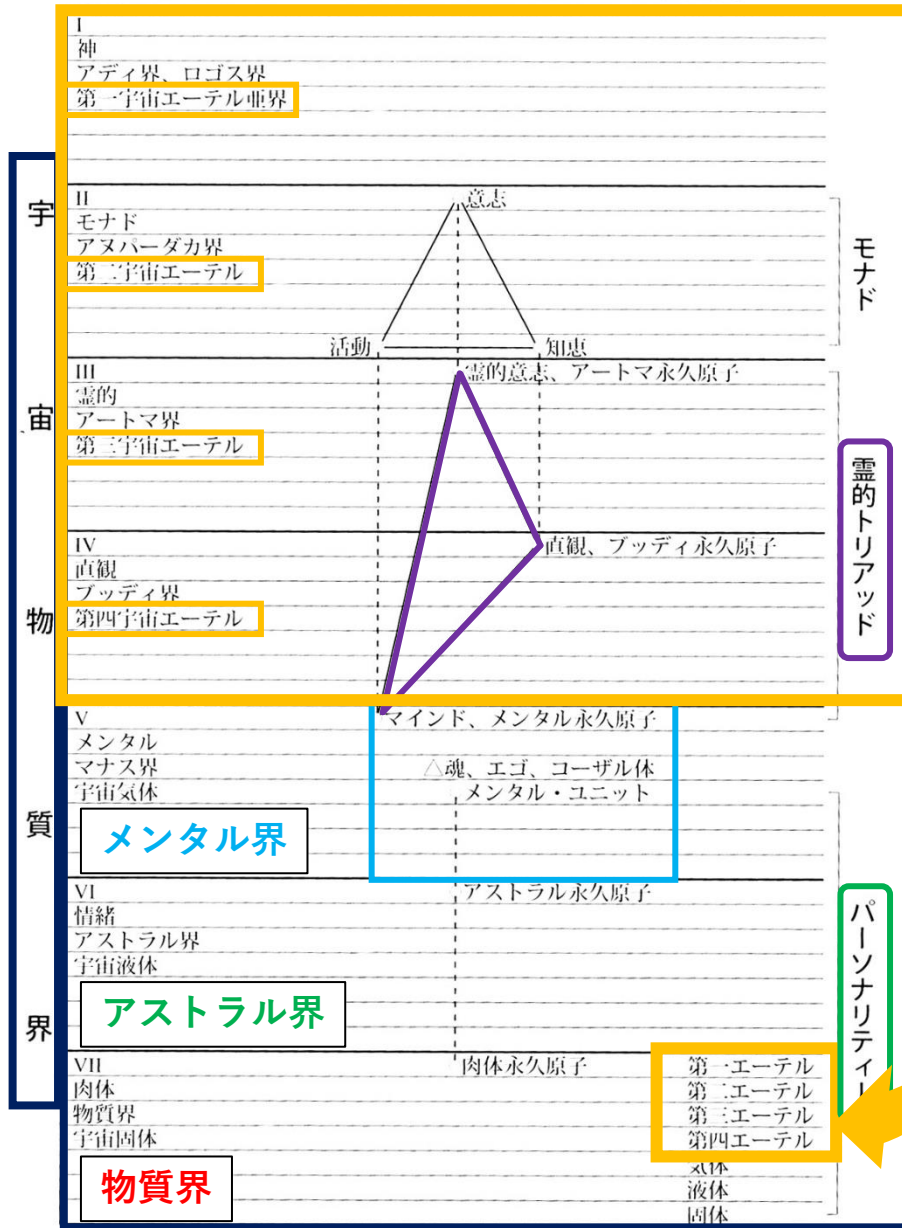
- 【根本補足】しかしながら、『原初はこのような状況にあったが、進化が進み、すべての王国間に相互作用を引き起こす放射が確立されるにつれて、この状況は自動的に変化した』(p.178:5～6行目)ということなので、わざと違った表現を使っているのかも知れない。

『テレパシーとエーテル体』

p.178:9行目

- 【翻訳】奇妙なことに、人間王国においては(しかも人間王国においてだけ)エーテル体は今、四つのタイプすべてのエーテル質料によって構成されている。この理由は、やがて(人間が霊的に発達したときに)この四つのレベルつまり四つのタイプのエーテル質料それぞれが宇宙物質界の四つの高位レベルー私たちはそれをエーテル・レベルと呼んでいるーに感応できるようになるからである。四つの高位レベルとは、ロゴス界、モナド界、アートマ界、ブッディ界である。
- 【根本補足】以下の形のフラクタル構造が存在する。
 - 第一エーテル ⇔ ログス界(第一宇宙エーテル)
 - 第二エーテル ⇔ モナド界(第二宇宙エーテル)
 - 第三エーテル ⇔ アートマ界(第三宇宙エーテル)
 - 第四エーテル ⇔ ブッディ界(第四宇宙エーテル)

私たちの太陽系の七つの界層



フラクタル構造

人間の構造

『テレパシーとエーテル体』

p.178: 後ろから7行目～5行目

- **【翻訳】**この理由は、やがて(人類が靈的に発達したときに)この四つのレベルつまり四つのタイプのエーテル質料それぞれが宇宙物質界の四つの高位レベルー私たちはそれをエーテル・レベルと呼んでいるーに感応できるようになるからである。四つの高位レベルとは、ロゴス界、モナド界、アートマ界、ブッディ界である。
- **【原文】** The reason for this is that eventually (when mankind is spiritually developed) each of these four planes or types of etheric substance will be responsive to the four higher levels of the cosmic physical plane—the etheric levels, to which we give the names: the logoc level, the monadic, the atmic level and the buddhic.
- **【DeepL翻訳】**その理由は、最終的に(人類が靈的に発達したとき)、この4つの平面またはタイプのエーテル物質が、宇宙の物理的平面の4つの上位レベル、つまりロゴレベル、モナドレベル、アトミックレベル、ブッディレベルという名前をつけたエーテルレベルに反応するようになるからである。
- **【根本試訳】**この理由は、やがて(人類が靈的に発達したときに)この四つのレベル、つまり四つのタイプのエーテル質料それぞれが、宇宙物質界の四つの高位レベルー私たちがロゴス界、モナド界、アートマ界、ブッディ界と名付けたエーテル・レベルーに感応できるようになるからである。

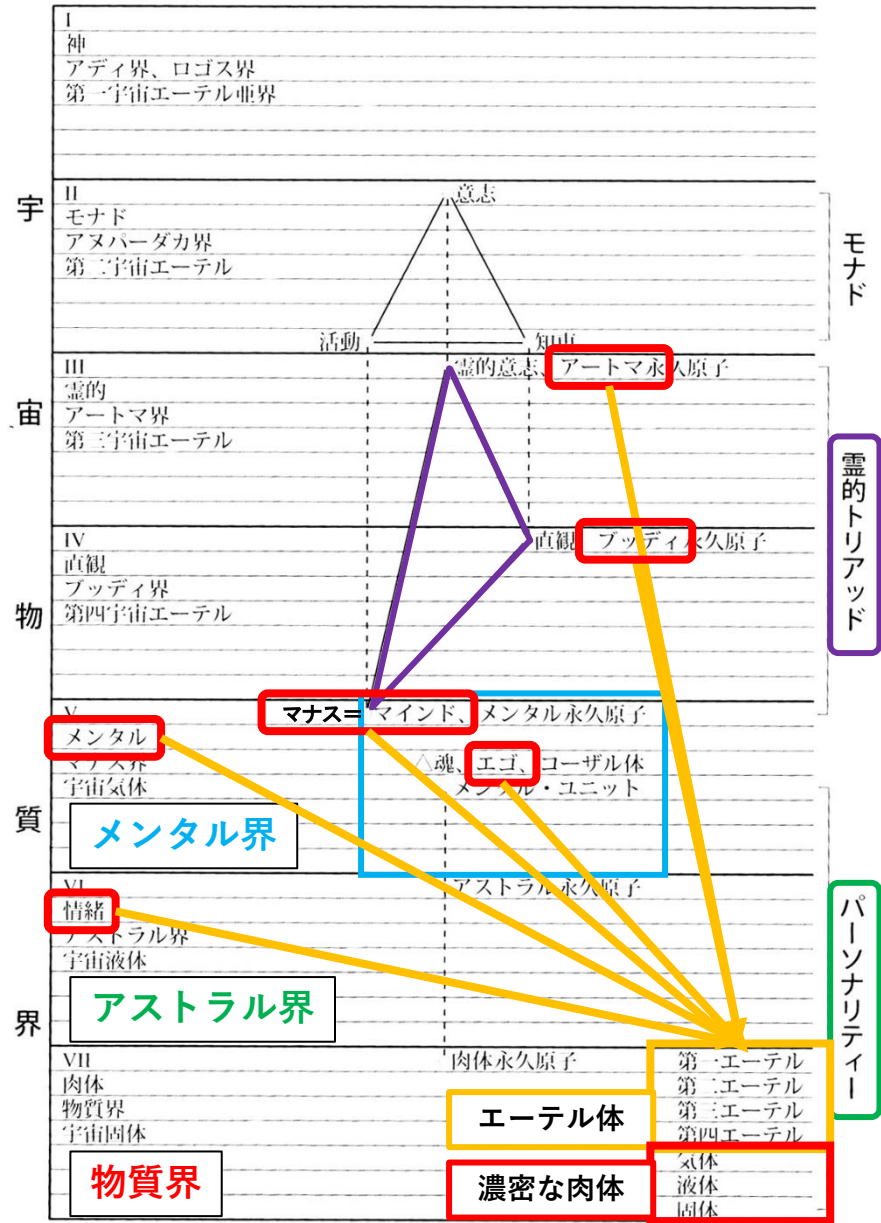
私たちの太陽系の七つの界層

『テレパシーとエーテル体』

178頁:後ろから2行目~

179頁:6行目

- これらのエーテル経路つまりエネルギーを運ぶ管を構成している質料が惑星のプラナーナであり、生命を与え健康を与える惑星そのもののエネルギーであることを覚えておかなければならない。
- これらの管を通して、考えられうるすべてのエネルギー—情緒、メンタル、エゴ、マナス、ブッディ、アートマのエネルギー—が、その人が到達した進化段階に応じて流れる。
- 濃密な肉体内に直接流入するときにはエーテル体にそれ自体の焦点を見出す。



人間的構造

『テレパシーとエーテル体』

p.179:7行目

- 【翻訳】「私自身の断片を宇宙全体に行き渡らせながらも、私は存続する」である。
- 【原文】“Having pervaded this whole universe with a fragment of myself, I remain.”
- 【根本コメント】
 - 「汎神論」(pantheism)は、「万物(世界)=神」と考える。
 - 「万有内在神論」(ばんゆうないざいしんろん、panentheism)は、神が万物(世界)よりは大きいもの、それを超え出て包み込んでいるもの、すなわち「万物(世界)⊂神」と考える。
- Panentheism by Kenneth Sorensen
<https://kennethsorensen.dk/en/glossary/panentheism/>
 - この考え方は、汎神論とは異なり、「万有内在神論」と呼ばれており、「すべては神の中に」と考えます。これは「バガヴァッド・ギーター」の基本的な教えです。クリシュナの有名な言葉がそれを物語っています：“私自身の断片でこの全宇宙を浸透させて、私は存続している”
- バガヴァッド・ギーター (ISCON) Chapter 10: The Opulence of the Absolute – TEXT 42
 - TRANSLATION—But what need is there, Arjuna, for all this detailed knowledge? With a single fragment of Myself I pervade and support this entire universe.
 - 私のほんのひとかけらによって私は遍満し、それによって全宇宙が支えられているにすぎない。

『スートラートマ』と『アンタカラナ』

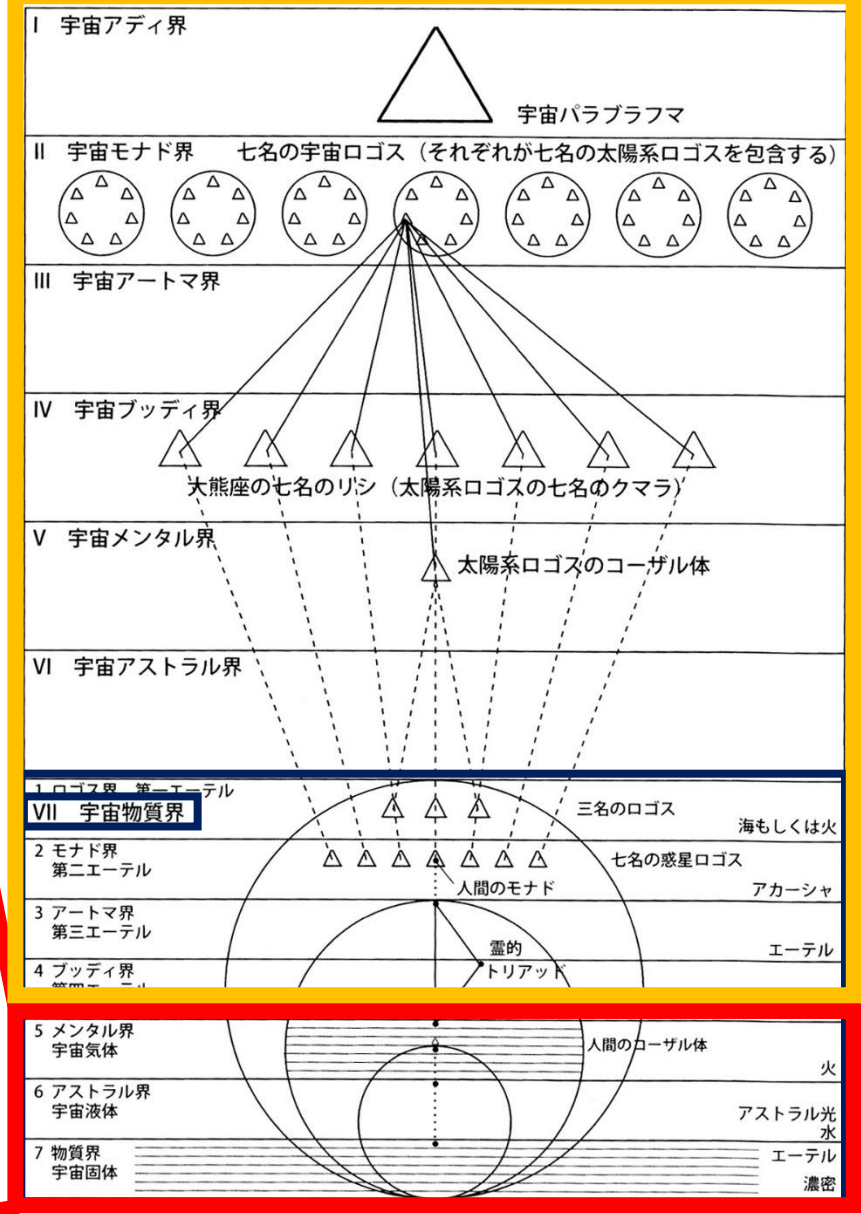
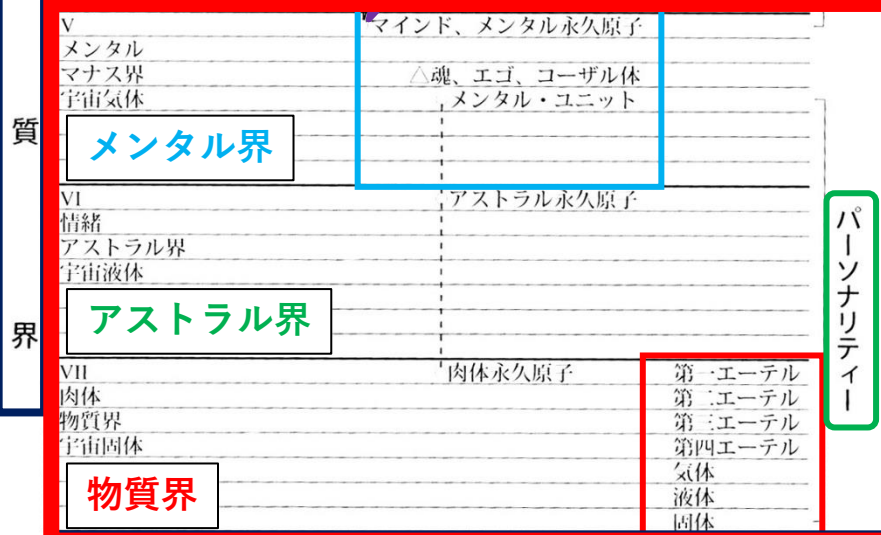
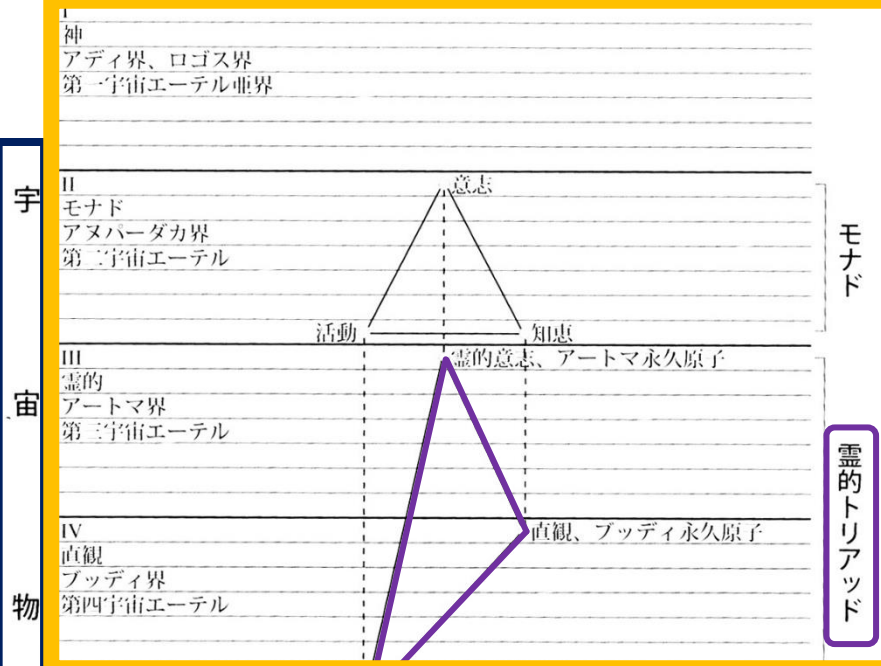
増補改訂版「アリス・ベイリー入門」(2019)土方三羊・著 p.89～90

- 私たちは生命の糸によってモナドと繋がっている。この生命の糸はスートラートマもしくは銀の糸と呼ばれるもので、この糸なくして私たちは生命を維持することはできない。つまり、根本的な生命はこの糸を通してモナドから魂を經由して肉体の心臓に送られてくる。
- アンターカラナと呼ばれる糸が存在する。これは意識の糸であり、それぞれの体での意識を結びつけるものである。
- スートラートマつまり生命の糸が上から下へと、つまりモナドからパーソナリティーへと働きかけるのに対して、アンターカラナつまり意識の糸は下から上へと、つまり肉体脳から魂へと、そして最終的にはモナドへと私たちが構築していかなければならない糸である。
- もしアンターカラナがモナドにまで届き、パーソナリティーとモナドが完全に一体になったならば、その人は大師である。したがって、このアンターカラナの構築は私たちの意識の進化プロセスと密接に関連している。

『テレパシーとエーテル体』

p.179: 後ろから4行目

- 【翻訳】惑星ロゴスの宇宙的なスートラートマつまり生命の糸は、私たちの最高界層(ロゴス界)に彼を顕現させ、シャンバラ(略)に見られる生気を吹き込む生命方の尽力によって、顕現している様々な界層を作っている物質—宇宙エーテル界(私たちの四つの最高界層)においては無形の物質、触知できる客観的な三つの最低界層においては有形の物質—に接触し、関係づけられる。
- 【原文】The cosmic sutratma or life-thread of the planetary Logos enters His manifestation on the highest of our planes (the logoc plane) and, through the instrumentality of the informing Lives to be found in Shamballa (*snip*) is brought into contact with, or is related to, the matter of which the manifested worlds are made—formless, as on the cosmic etheric planes (our highest four planes), or tangible and objective, as on the lower three planes.
- 【根本試訳】惑星ロゴスの宇宙的なスートラートマつまり生命の糸は、私たちの最高界層(ロゴス界)における彼の顕現に入り込み、シャンバラ(略)に見られる生気を吹き込む生命方の尽力によって、顕現している様々な界層を作っている物質—宇宙エーテル界(私たちの四つの高位界層)においては無形の物質、触知できる客観的な三つの低位界層においては有形の物質—に接触し、関係づけられる。



『四重の生命』 p.180: 後ろから1行目

- 【翻訳】このことは、**小宇宙**と**大宇宙**両方の**エーテル体**の能力と本質を象徴しており、四重の生命の大宇宙的な表現がすべての生ける形態を条件づけている。
- 【原文】This symbolises the potency and essentiality of the etheric body, both microcosmic and macrocosmic, and the macrocosmic expression of the fourfold Life conditions all living forms.

以下のキーワードでググってみたが、上記の一文以外に見つからなかった！

“fourfold Life” [site:www.lucistrust.org/online_books/](http://www.lucistrust.org/online_books/)

- 【根本の私的解釈①】

- **第一エーテル** ⇔ **ロゴス界(第一宇宙エーテル)**
- **第二エーテル** ⇔ **モナド界(第二宇宙エーテル)**
- **第三エーテル** ⇔ **アートマ界(第三宇宙エーテル)**
- **第四エーテル** ⇔ **ブッディ界(第四宇宙エーテル)**

- 【根本の私的解釈②】

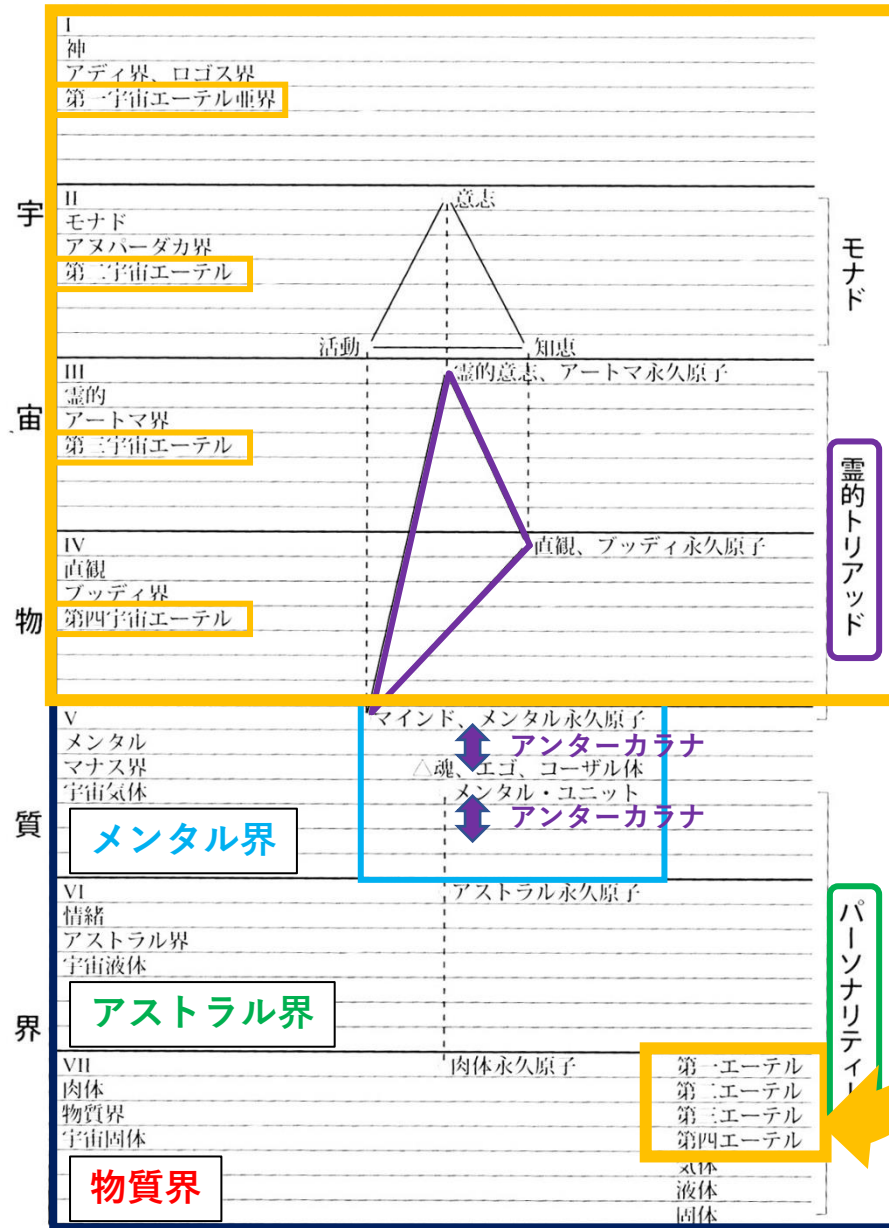
- **大宇宙**における宇宙エーテル界(四つの上位階層)
- **大宇宙**における物質界・アストラル界・メンタル界(三つの下位階層=三界)
- **小宇宙**における横隔膜よりも上の部位
- **小宇宙**における横隔膜よりも下の部位

私たちの太陽系の七つの界層

『テレパシーとエーテル体』

181頁:2行目~3行目

- 時として**四つのエーテル**と呼ばれるものはそれぞれ**一人間**に関する限り**四つの宇宙エーテルの経路**もしくは**表現**になるように意図されている。
- 現在これらは、意図されていることとは程遠い状態である。
- アンターカラナが構築され、私たちが普遍的な生命、モナドの強さ、神の目的、純粹理性と呼んでいる**宇宙エーテル**のための**直接の経路**としての役割を果たしたとき初めて、そのようになることができる。



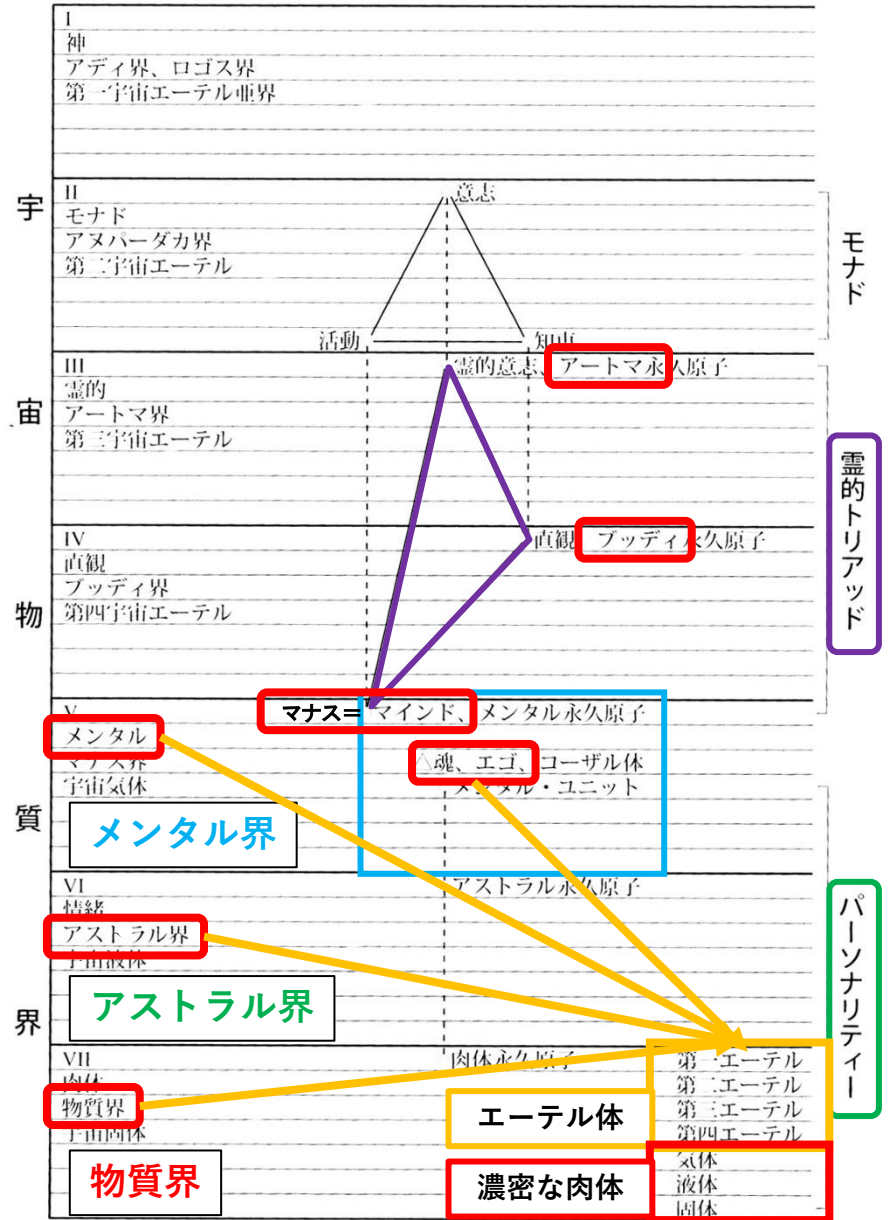
人間の構造

私たちの太陽系の七つの界層

『テレパシーとエーテル体』

181頁:8行目~9行目

- 現在、エーテル体は次の所から流入してくるエネルギーに感応している。
 1. **物質界**—動物的な欲望を満たし、統御する。
 2. **アストラル界**—欲求、情緒、熱誠を決定する。
 3. **低位メンタル界**—我意、利己性、分離性、物質界上での生活の方向性と傾向を発達させる。
 4. **魂**—個人主義の原理、聖なる意図の小宇宙における反映、完全なモナドの表現にとって「中間点に立つ」もの、真の感受性と感応能力の道具、横隔膜よりも上にあるものと下にあるものの中間点にある**太陽神経叢**の霊的な対応物。

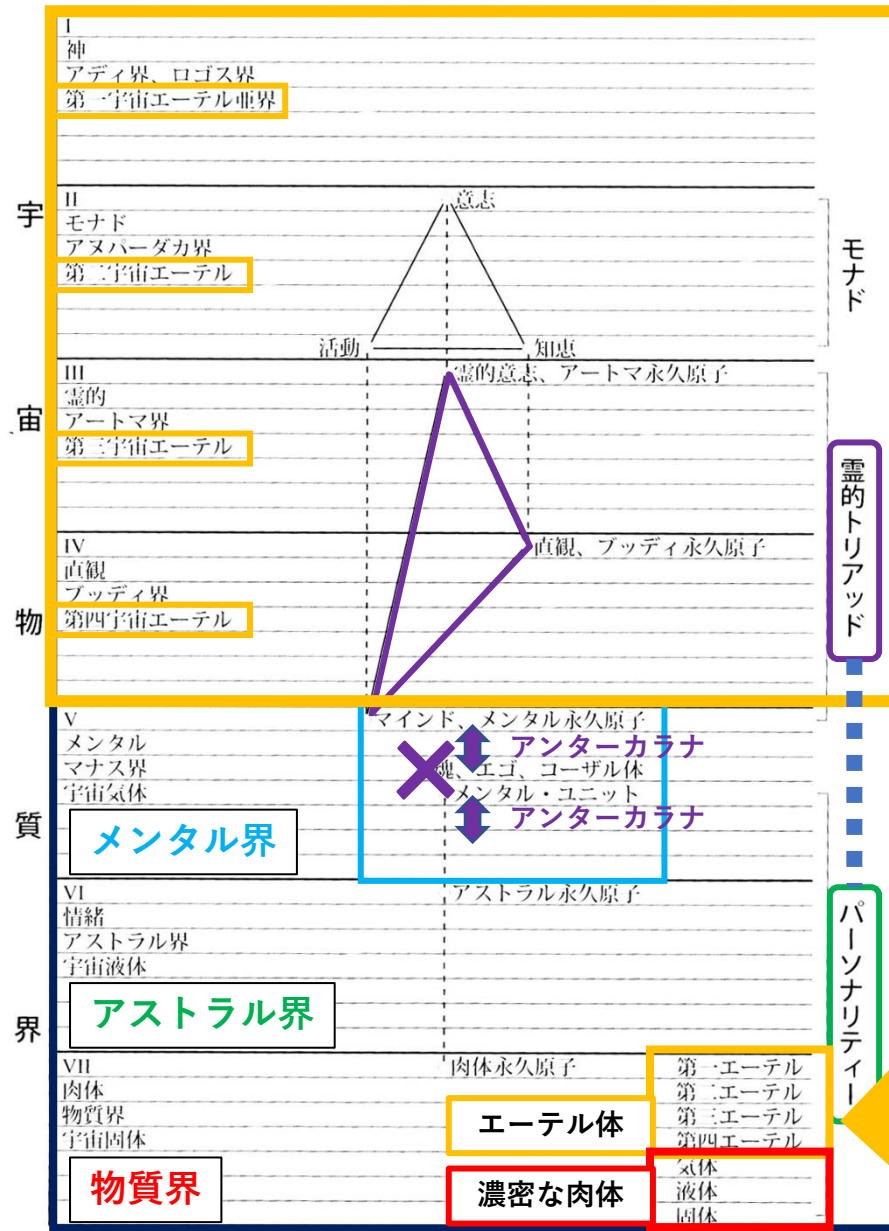


私たちの太陽系の七つの界層

『テレパシーとエーテル体』

182頁:1行目~5行目

- **アンターカラナが構築され、高位の三つ(根本解釈: **霊的トリアッド**)が下位の三つ(根本解釈: **パーソナリティー**)に直接関係づけられたとき、**魂はもはや必要ではなくなる。****
- **四つのエーテル・レベルは単に、四つの宇宙エーテル・レベルから発せられるエネルギーを伝導するものになる。**そのとき経路は直接的になり、完成され、妨害されることはなくなる。
- **光のエーテル・ネットワークは偉大な輝きを発し、**肉体のすべてのセンターが目覚め、調和とリズムをもって機能するようになる。****



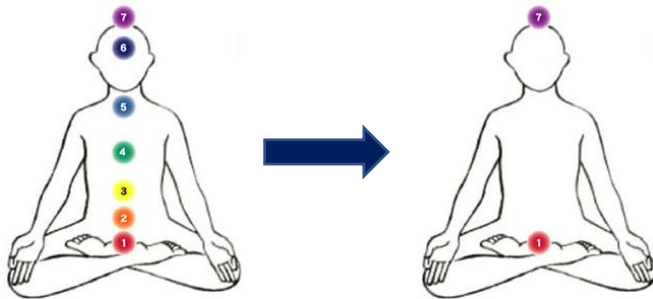
フラクタル構造

人間の構造

『テレパシーとエーテル体』

182頁:5行目～後ろから4行目

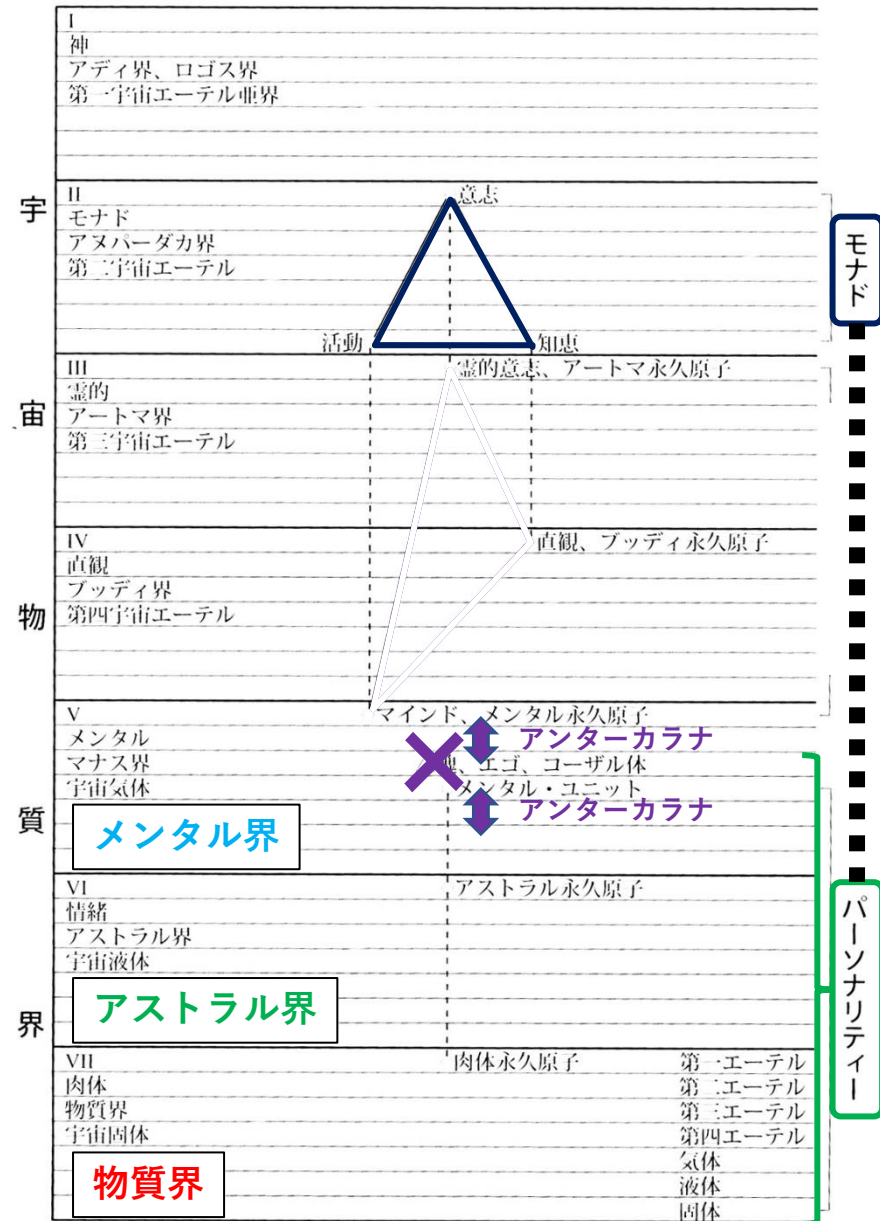
- **モナド**と**パーソナリティー**が**直接関係づけられる**。
 - **三重の魂**(**霊的トリアッド**:**アートマ**、**ブッディ**、**マナス**)は**必要でなくなる**。
- **ヘッド・センター**が**脊柱基底センター**と**直接関係づけられる**。
 - 中間にある**五つのセンター**は**必要でなくなる**。



- 聖なる顕現の以前の**三重性質**に代わって、**完全な二重性が確立される**。

モナド … パーソナリティー
 ヘッド・センター … 脊柱基底センター

私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

『いにしへの注釈書』 p.182-183

(Old Commentary)

【『ホワイトマジック(上)』 p.102】

- …『いにしへの注釈書』には、それが書かれた年代を知る手掛かりはない。その年代をあなた方に告げたとしても、私の言葉が本当であることを立証する手立てが何もないため、軽信(根本注:軽々しく信じ込むこと)に直面することになるであろう。
- このような古代の聖典は現代人が本を読むような方法で読むものではない。それらを見て、触れて、そして理解するのである。そして、意味は一瞬のうちに明らかになる。

『いにしへの注釈書』 p.182-183 (Old Commentary)

【Old CommentaryについてChatGPT4.0に英語で尋ねてみた結果を翻訳！】

- “Old Commentary”という用語は、Alice Baileyが“Master of the Wisdom”、つまり啓蒙した霊的存在であるDjwhal Khul、またはThe Tibetanからテレパシーで受け取ったと主張した霊的な教えの一部を指しています。これらの教えは、1919年から1949年の間にBaileyが書いた一連の本に示されています。
- “Old Commentary”は、これらのテキストの中で頻繁に引用され、古代の知恵、一種の原始的な教えや聖典の源泉であるとされています。しかし、“Old Commentary”の全文が独立して提示されたり、出版されたりしたことはありません。それはむしろ、BaileyがThe Tibetanの知恵を提示するために使用した手段で、これらの教えに対してさらに古代の権威を追加する層を提供しています。
- Baileyの著述は、“Old Commentary”からの教えを含めて、占星術、秘教的な治癒、瞑想、霊的な心理学、人間の魂の進化、人類と地球の霊的な運命など、幅広いトピックをカバーしています。また、彼女が創設した組織、Arcane SchoolとLucis Trustの基礎となるテキストも構成しています。これらの組織は今日でもこれらの教えを推進し続けています。

お知らせ

生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

- <アップデート版>何があっても大丈夫ー
『宇宙の創造原理』と『意識の二階層論』の統合
詳細：<https://life-system-labo.com/2023/04/28/ok2/>
お申し込み：<https://ws.formzu.net/fgen/S116442518/>
日時：**6月23日(金)**19:00～22:00[ZOOM]
6月25日(日)13:30～16:30[アクエリアス & ZOOM]
➤ 6月23日と6月25日の内容は同じです。
参加費：6,000円(前回参加者は半額)

新しい時代に向けて 2023

希望と変化の必要性についての対話



石川道子



根本泰行

司会：神尾学

昨年5月に日米をオンラインでつないで行われた対談では、専門分野の異なる二人のオープンで心の通った対話が好評でした。今回、石川道子氏の久々の来日を機に、実際の会場での対談が可能になりました。

混迷する現代において、公正で差別のない平和な世界の実現を可能にする大いなる力が働いており、一般大衆の意識の目覚めとともに、世界中で平和と変化を求める行動が展開されています。

平和、分かち合い、教育、霊性、次世代へ伝えたいことなど、聴衆との質疑応答も含めて、これからの人類の進むべき道を自由に気軽な感じで語りあうイベントになることを期待しております。

昨年オンライン対談は――

「新しい時代に向けて」(日本語音声のみ) <http://tiny.cc/taidan>

「The Path to a New Era」(英語字幕付き) <http://tiny.cc/hopemessage>

6月3日(土) 開場12:30 開演13:00

東京ウィメンズプラザ・ホール

(東京都渋谷区神宮前 5-53-67)

JR「渋谷駅」宮益坂口から徒歩12分 地下鉄「表参道駅」B2出口から徒歩7分

同日 18:00～20:30 に満月の瞑想会を企画しています

入場無料 (定員 246名)

お問合せメールアドレス: sinetworkjapan@gmail.com



石川道子：英国人ベンジャミン・クレームの最初の著書『The Reappearance of the Christ and the Masters of Wisdom』に出会い、その情報を日本に紹介するとともに、クレーム氏の協働者として、その後の氏の英語版の著書の大半を編集・出版し、さらに日本語への翻訳、出版を行う。国際月刊誌『シェア・インターナショナル』には創刊号から関わり、また日本語版の監修責任を担ってきた。2018年度の石川道子の公開講演『平和は選択肢にあらず――人類生存のための唯一の道』のテーマは特に日本の現状に鑑みて機を得た講演であり、質疑応答とともに、シェア・ジャパンのウェブサイトに掲載されている。(https://sharejapan.org/library/movie)。

根本泰行：東京大学理学系大学院で理学博士号を取得後、東京農工大学、奈良女子大学、ハワイ大学、マイアミ大学などで、研究に携わる。2002年から、『水からの伝言』の著者、故・江本勝会長の下で、国際秘書として仕事を始める。現在では、世界最先端の科学者たちによって証明されている『水は情報を記憶する』『水はエネルギーを貯蔵する』という科学的な事実についての講演を行っている。2022年に『生命システム研究所』という名称のサイト(https://life-system-labo.com)を立ち上げて、哲学と霊性、平和な社会を構築する方法、新しい水の科学、現代生物学などについて、他では聞くことのできないユニークな講座を開催している。

神尾学：東京大学工学部・教育学部、同大学院(体育学・健康教育学専攻)博士課程中退。ホリスティック・スペース・アクエリアス主宰。1994年に『マイトレーヤの使命』に出会い、それまで行っていた身体運動の研究・指導から、神智学の探求に移り、アリス・ペイリーの教えの解説・普及に専念する。

主催：石川根本対談開催委員会 協力：シェア・インターナショナル・ネットワーク・ジャパン

新しい時代に向けて2023

希望と変化の必要性についての対話

日時：2023年6月3日(土)

開場：12:30 開演：13:00

会場：東京ウィメンズプラザ・ホール

入場無料(定員246名)

対談：石川道子氏 x 根本泰行氏

司会：神尾学氏

問い合わせメールアドレス：

sinetworkjapan@gmail.com

満月ツインハート瞑想会

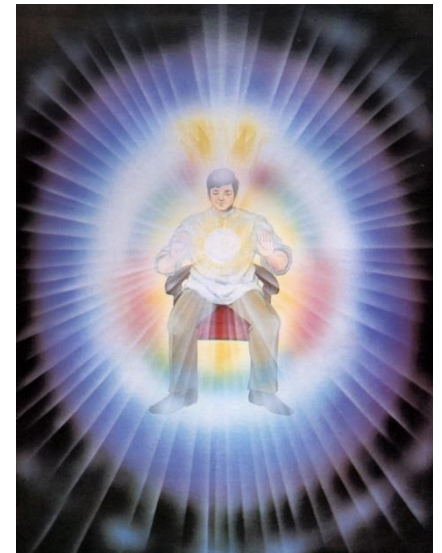
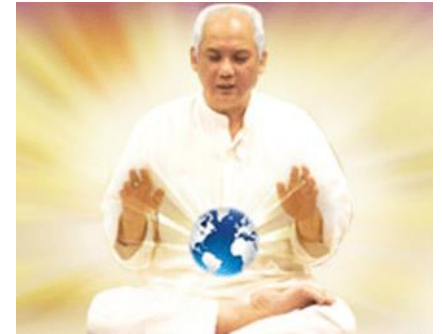
毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。
初心者大歓迎！ 聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。

- 2023年6月4日(日)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年7月3日(月)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年8月2日(水)21時～22時、担当:根本泰行
- 2023年8月31日(木)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年9月29日(金)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年10月29日(日)21時～22時、担当:根本泰行
- 2023年11月27日(月)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年12月27日(水)21時～22時、担当:根本泰行

必ずウェブサイトから申し込んでください。

<https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/>

2023年1月22日より、毎月新月の日の21時からアリス・ベイリー著『テレパシーとエーテル体』の読書会とシェア会を開催しています。ウェブサイトから申し込んでください。



シェア会

